

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	0572214054		
法人名	株式会社 せきれい		
事業所名	グループホーム せきれい苑		
所在地	秋田県山本郡三種町鯉川字内鯉川108-4		
自己評価作成日	令和5年11月10日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.akita-longlife.net/evaluation/">http://www.akita-longlife.net/evaluation/</a>
----------	---------------------------------------------------------------------------------------------------

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 秋田マイケアプラン研究会		
所在地	秋田県秋田市下北手松崎字前谷地142-1		
訪問調査日	令和6年1月15日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

・入居者一人ひとりの生活歴・能力・特徴の把握に努め、個々に必要な支援や課題をカンファレンスし、チームケアに取り組んでいる。  
 ・入居者の皆さんが、楽しめるようなレクリエーションやイベントを担当者を中心に企画し、職員一丸となり実施している。レクリエーションは毎月、イベントは適宜実施している。レクリエーションは職員全員で持ち回り制となっており、担当職員によって、おやつ作りや工作・歌やゲーム・ドライブなどバリエーションに富んでいる。  
 ・毎月ご家族へ送付している「近況報告書」は、写真付きで、入居者の日々の様子がよく分かるよう、担当者が記入し、内容の充実を図っている。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

国道から一步奥に入り、日々の天候や季節の移り変わりが感じられる環境にホームはありません。職員の意見、提案等を受けて業務の改善やホームの環境整備に努めている他、利用者の残存能力を暮らしの中に活かし、利用者の安心と家族の信頼に繋がっています。自治会に加入したことで「苑だより」を通じてホームの活動状況をお知らせできるようになり、地域との関係を大切にして連携、交流を進めていこうという意欲が感じられます。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~46で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
47	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:19,20)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	54	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9,15)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
48	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	55	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,16)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
49	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:19)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	56	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
50	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	57	職員は、生き活きと働いている (参考項目:10)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
51	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:41)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	58	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
52	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	59	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
53	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	コロナ禍により、地域交流の機会は激減しているが、地域とのつながりを大切にする姿勢で、入居者一人ひとりの個別ケアに取り組んでいる。	利用者主体のサービスが実践され、日々のケアに活かされています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域とのつながりを大切にし、出来るだけ交流が途絶える事の無いよう、努めている。	自治会に加入して取り組み状況を積極的に発信し、地域の中にあるホームとして認識されています。町内の訪問美容をお願いしている他、福祉施設や保育園と交流再開のための情報共有に努めています。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	地域に出掛ける機会は少ないが、運営推進会議で情報提供し、事業所の様子を積極的に発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度より、資料送付から対面での開催となり、参加者から貴重な意見や感想を聞く機会が出来、サービスの向上に反映させている。	自治会長がメンバーとして参加しています。地域との連携を進める上で会議メンバーの存在は大切なものであることから、活発な意見交換がサービスの向上に繋がることを期待します。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村とは、運営推進会議の他、必要に応じて情報交換し、関係作りに努めている。	運営推進会議への参加や日頃の情報交換、相談等で協力関係を築いています。	
6	(5)	○身体拘束及び虐待をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び「高齢者虐待防止関連法」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組むとともに、虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	苑内研修で、虐待防止に関することについて、学ぶ機会を設け、意識統一に努めている。今年度からは、外部研修にも(Webセミナー主体)積極的に参加している。	研修等を通じて職員の意識を高め、現場や会議でも話し合う機会を設けて身体拘束、虐待のないケアに努めています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	苑内研修で、実際に権利擁護を活用している入居者を例にしながら、学ぶ機会を設けている。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時に、入居者や家族の不安や意向の確認に努め、苑の方針等についても、分かりやすい説明を心がけている。		
9	(6)	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、要望、苦情等を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、適切に対応するとともに、それらを運営に反映させている	家族来苑時やラインや電話などで、積極的にコミュニケーションを図りながら、気軽に話せる関係づくりに努めている。1年に1回8月に「家族アンケート」を実施し、結果を職員や運営推進会議で共有し、サービスの向上に努めている。	家族アンケートでは感謝の言葉が多く、苦情等はありませんが、利用者の近況を報告する際に意見、要望の引き出しに努め、対応できるようにしています。	
10	(7)	○運営や処遇改善に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営や職場環境、職員育成等の処遇改善に関して、職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを適切に反映させている	毎月1回の全体ミーティングや年に2回実施している「スタッフアンケート」で、職員の意見や要望を受ける機会をつくり、事業所の運営等に反映させている。	職員からはさまざまな意見や要望が出され、日常のケアや職場環境の改善に繋がっています。	
11		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	会社の合併により、同グループの同業者と委員会や研修等を通じて、交流する機会が増えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期の段階で、細かくアセスメントを行い、職員間で情報共有し、信頼関係作りに努めている。		
13		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期の段階で、ご本人だけでなく家族の状況や意向の把握に努め、ケアプランにも、盛り込んでいく。		
14		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と入居者が、共に支え合う関係を心がけ、出来るだけ自立し、個々のペースで生活出来るような関係作りに努めている。		
15		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者と家族の仲介をしたり、家族の協力を積極的に活用しながら、良好な関係作りに努めている。		
16	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように、支援に努めている	入居者が大切にしている物や人・場所の把握に努め、つながりを継続していけるよう、支援している。日常の場面でも、記憶に働きかけていくよう心がけている。	コロナ禍で継続できないこともありましたが、家族が年賀状をくれたり、美容師の訪問も楽しみにしています。その人にとって馴染みのもの、大切なものを利用者との会話から把握できるように努めています。	
17		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者一人ひとりを尊重しながらも、入居者同士の関係性や相性にも配慮し、孤立せず安心して過ごせるよう、支援に努めている。		
18		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了に関わらず、状況や必要に応じて相談や支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向、心身状態、有する力等の把握に努め、これが困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、入居者の思いや意向を汲み取れるよう努めており、意思疎通が困難な方でも表情や仕草、様々な関係者からの情報を参考にしながら、把握に努めている。	利用者の日常を通してその思いを汲み取り、ケアに活かせるよう取り組んでいます。	
20		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの生活歴を重視し、入居者本人、家族、担当ケアマネから詳しく情報収集している。		
21	(10)	○チームでつくる個別介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した個別介護計画を作成している	入居者本人、家族の意向を元に、どんな支援が出来るかユニットで話し合い、ケアプランに反映させている。	毎日カンファレンスを行い、現状に即した介護計画となるよう取り組んでいます。計画の見直しについては家族にも意見をいただいています。	
22		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や個別介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに沿って、日々カンファレンスを行い、実施評価をしながら、ケアプランの見直しに活かしている。		
23		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一人ひとりを支えている地域資源の把握に努め、安心して穏やかな生活が送れるように支援している。		
24	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医について、入居者や家族の意向に沿い、対応している。状況に応じて、往診可能な医師を紹介させていただく事もあり、かかりつけ医とは、情報交換しながら、良好な関係作りに努めている。	利用者、家族の希望に添い、適切に支援しています。訪問診療を受けている方もおり、通院には職員が対応し、家族の協力を得ている場合もあります。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は週2回(火曜日、金曜日)来苑し、入居者の健康管理のサポートを行っており、来苑時以外にも、随時電話連絡にて、相談できる体制となっている。		
26		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入居者の入院時は、病院との情報共有を密にし、早期退院に向けて、退院後の施設での生活を見越して相談できる関係作りに努めている。		
27	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に伴い、早い段階から家族とコミュニケーションを取り、本人と家族の意向を確認しながら、事業所がどこまで対応出来るかを明確にし、関係各所と連携しての支援に努めている。	指針を策定し、ホームでの看取りを経験しています。特養に申し込んでいる方もおり、状況に応じて主治医と連携しながら家族が安心できる支援が行われています。	
28		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全体ミーティングや苑内研修でシュミレーションしたり、看護師に相談し、指示を仰ぎ対応している。		
29	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を実施し、その都度反省点等を全体ミーティングで出し合い、検討している。今後、地域の消防団とも連携を図り、避難訓練への参加を打診中である。	日中、夜間を想定した避難訓練を実施しています。自治会長が消防団長でもあることから、運営推進会議を活用し、具体的な訓練、協力体制の構築に取り組まれることを期待します。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの尊厳を守りながら、職員が統一したケアが出来るよう、話し合いの場や苑内研修で学ぶ機会を作っている。	入浴、排泄の際の会話や声かけの仕方に配慮しています。また、配慮の必要なケアについては個人名を使用せずに職員間の情報共有を図っています。	
31		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者の好みや希望の把握に努め、身だしなみやおしゃれの支援を行っている。		
32	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立作成の際は、入居者の好みを取り入れ、調理から盛り付け・片付けまで一緒に行うことで、食への意欲を大切にしている。	差し入れの野菜を献立に取り入れて季節を感じていただいたり、できることを手伝っていただいています。お菓子づくりでも利用者の力が活かされ、その様子は家族に動画で伝えています。	
33		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスや水分量の把握に努め、一人ひとりの状態や状況に合わせた対応を考え、支援している。		
34		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの大切さを理解し、個々に合わせた支援を心がけている。		
35	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンの把握に努め、出来るだけ自立に向けた支援を行っている。	チェック表を活用し、排泄用品の軽減を検討しながら個々のパターンに応じて支援しています。保温したお尻拭きシートが使用できるよう工夫されており、職員の心遣いが感じられます。	
36		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘が及ぼす影響を理解し、すぐ薬に頼らずに、出来るだけ食事や水分摂取、運動等で改善・予防できるように取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	一人ひとりの希望やペース、タイミングに合わせて、柔軟な対応を心がけている。	週2回の入浴を設定しています。足浴や清拭を併用して清潔保持できるよう支援しています。	
38		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣やペースに合わせてながら対応している。		
39		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員が個々の入居者の処方薬を理解できるよう、各ユニットで確認し合い、看護師・主治医の助言を得ながら慎重に対応している。		
40		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者が出来ることややりたいことを出来る限り尊重し、生きがいを感じられるよう支援している。また、毎月各ユニットでレクリエーションを企画し入居者の楽しみ事を作ったり、その他イベントも企画し、楽しんでいただけるよう努めている。		
41	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者の希望に沿い、買い物や美容院等に出かける支援を行っている。	天候やコロナ禍で外出できないこともありましたが、個別の希望には可能な限り応えている他、職員が声をかけて苑庭や近所を散歩して外気に触れる機会をつくっています。	
42		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者によっては、ご自分で所持金を管理している方もおり、トラブル防止に努めながら支援している。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースは気持ちよく使えるように、清潔感を保ち、家庭的な落ち着いた環境づくりに努める。苑内の装飾や景色の彩り、食材などで季節を感じられるよう働きかけている。	カメラが趣味の家族が撮影した写真が玄関や廊下に飾られています。季節を感じ取ることができるよう、利用者が見つけた作品も飾られています。	
44		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間の中でも、一人ひとりの居場所を作り、入居者同士の関係性にも配慮し、不安なく過ごせるよう努めている。		
45	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の居室は、本人やご家族の意向に沿いながら、馴染みのあるものを持ち込めるようにし、安心して過ごせることを第一に考え、支援している。	位牌や遺影、家族写真等、本人や家族の希望するものを持ち込んでいただき、安心して過ごせる配慮をしています。	
46		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部は、入居者が安心して過ごせるよう、また入居者の出来る事や能力を活かせるよう、トイレや居室に目印をつけたり、不安に感じやすい事は紙に書いて掲示したり、個々に合わせて対応している。		